町長コラム

町長室からこんにちは No.60

一宮町長
馬淵 昌也

いよいよオリンピックが近づいてきました。一宮町にお住まいの大原洋人さんが出場されることとなり、頑張っていただきたいということで、皆さまのご関心もひときわ高まっておられることと存じます。

わが町の釣ヶ崎海岸がオリンピック史上はじめてのサーフィン会場に選ばれたことも名誉なことですが、さらに町民の方が選手として出場されるというのは、並大抵のことではありません。一宮町は、やはり、サーフィンというスポーツとは、特別な縁をいただいていると感じます。

先日、一宮海岸で行われた日本プロサーフィン連盟（JPSA）の全国大会では、本誌にも報道されている通り、優勝は、男性が稲葉玲王さん、女性が脇田紗良さんでしたが、実は準決勝から、一宮町在住の方々だけが競う状態でした。まさしく、一宮町は全国トップクラスのサーファーの方々が集う、特別な町となっていることがわかります。

五輪の聖火リレーのランナーに選ばれた軽部太氣さんのお話では、3ページの特集のメッセージでも語っているように、一宮町の海岸は、一年中よい波が立ち、常時良好なコンディションで練習ができる、日本でも他に類を見ない優れた所だそうです。

こうしたことからすると、一宮町は、オリンピック後も、こうしたサーフィンとの特別な関係を前提に、町の更なる発展を模索してゆくべきだと思います。

海岸部のコンディションの維持と増進を中心としたハード面での整備と、サーフィンを中核として寄せられる町への関心を、サーフィン以外の方面へとつないでゆくソフト面での戦略が必要です。

ハード面での増進は、一宮海岸・釣ヶ崎海岸ともに、駐車場・トイレ・シャワーなどの整備がオリンピック到来を契機にかなり進むので、一定の進歩がみられると思います。ソフト面では、たとえば一宮町の農産品として定評のあるメロン・トマト・梨などの購入回路を海岸部に設定し、オリンピック会場跡地を訪れる方々にアピールしてゆく、などの施策が考えられます。

いずれにせよ、オリンピック後には、一宮町への内外からの注目はさらに強まってゆくでしょう。この大きな波を逃さず、町の次の発展につなげてゆくことが肝要です。町民の皆さまからもアイディアをいただいて、今後の町の発展をともに切り開いてゆきたいと思います。皆さまのご協力をお願い申し上げます。